

観光社会資本の事例

テーマ	津なぎさまちの建設と中部国際空港との定期航路による賑わい空間創出事例	
【施設の状況写真】		
 <p data-bbox="523 757 699 786">津なぎさまち 遠景</p>	 <p data-bbox="1198 757 1374 786">フェニックス通り</p>	
<p>津なぎさまちは、平成17年2月の中部国際空港開港に合わせてオープンし、空港利用者などを中心に当初の予測を大幅に上回る日平均約1,400名程の利用がなされている。</p>	<p>津市の中心地から津なぎさまちに向けてはフェニックス通りが整備され、津なぎさまちを中心として一体感・調和の取れたまちづくりが行われている。</p>	
【施設の利用写真】		
 <p data-bbox="587 1048 719 1077">乗降客の様子</p>	 <p data-bbox="1102 1070 1394 1099">旅客船ターミナル周辺の賑わい</p>	
<p>津市と中部国際空港を結ぶ高速船は、14往復/日運航されており、三重県方面から中部国際空港への新たな玄関口として、多数の方々に利用されている。</p>	<p>津なぎさまちには旅客船ターミナルの他、民間の商業施設ベシスカがオープンしたことで、乗船客による賑わいに加え、幅広い方々に利用されている。</p>	
【観光資源としての利用状況】		
<p>津松阪港賢崎地区（津なぎさまち）は、平成17年2月中部国際空港開港にあわせてオープンし、常滑と津を結ぶ海上アクセス船が就航しています。</p>		
<p>平成17年6月現在、日平均1,400名程の利用客があり、飛行機を利用したレジャーあるいは対岸との交通手段にと、多くの利用がなされています。</p>		
<p>津なぎさまち周辺の施設計画にあたっては、地域の方々と行政が一体となって策定作業が行われたほか、対岸の常滑とも連携した賑わい空間の創出に向けた市民同士の連携の動きも見られています。</p>		

テーマ	津なぎさまちの建設と中部国際空港との定期航路による賑わい空間創出事例
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 津松阪港（鷺崎地区）</p> <p>所在地 三重県津市</p> <p>事業名 津松阪港港湾整備事業</p> <p>事業主体 三重県</p> <p>事業期間 H14～</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>海上交通拠点</p> <p>津なぎさまちと中部国際空港を結ぶ定期航路は、14往復/日就航しており利用客は、当初の想定を大幅に上回る1,400人/日の利用があることからみても、津なぎさまちは三重県における新たな海上交通拠点として順調なスタートを切りました。</p> <p>今後、さらなる賑わいの創出に向けて、市民・行政一体となった様々な取り組みが行われることが期待されています。</p>	
<p>【位置図】</p>  <p>現地への交通手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津駅（JR、近鉄） 三重交通バスへのりかえ 津なぎさまち下車 ・伊勢自動車道・津ICから約10分 	
<p>【関連ホームページ】 津なぎさまちHP http://www.nagisa.city.tsu.mie.jp/</p> <p>津エアポートラインHP http://www.tsu-airportline.co.jp/top.php</p>	